

老春の家・音楽療法は“健康、仲間、居場所、そして生きがい”

事業仕分けに待ったをかけた手づくりの署名運動

平和会健康友の会あやめ池診療所支部 津幡 邦昭さん

生きる力と 向きあつて 現場通信14

老春の家で月に1回開かれる音楽療法士とボランティアの指導によるシルバークーラスは、午前・午後それぞれ200名ずつが、若々しく美しい声を響かせています。10年以上クーラスを続けている人がたくさんおられま

す。このように、老春の家・音楽療法は「健康・仲間・居場所・生きがいづくり」に欠かさないのです。ところが一昨年11月に、奈良市事業仕分けは、老春の家・音楽療法・万年青年クラブ事業を「不要」と判定しました。この方向では、老春の家は廃止されてしまいます。

署名の6割は利用者が集めました。80歳台の人が「ここがのつなったら困るから、署名してや」と、老春の家の玄関に立つて訴えられます。また5枚、10枚と署名用紙を持ち帰って近所の人に訴えた人もおられます。平和会健康友の会も1000筆近く集め、大きな力を発揮しました。

今、あやめ池地域ではあやめ池駅にエシペーターをつけてほしいとの署名に取り組み、現在8000筆集まっています。この2つの取り組みは、市民の福祉を守るうとの熱い心に支えられて進んできました。市民は運動の意義がわかれば動く。連帯できる「これは私の最大の教訓です。」

「ここがのつなったら困るから、署名してや」と、老春の家の玄関に立つて訴えられます。また5枚、10枚と署名用紙を持ち帰って近所の人に訴えた人もおられます。平和会健康友の会も1000筆近く集め、大きな力を発揮しました。

署名の6割は利用者が集めました。80歳台の人が「ここがのつなったら困るから、署名してや」と、老春の家の玄関に立つて訴えられます。また5枚、10枚と署名用紙を持ち帰って近所の人に訴えた人もおられます。平和会健康友の会も1000筆近く集め、大きな力を発揮しました。

今、あやめ池地域ではあやめ池駅にエシペーターをつけてほしいとの署名に取り組み、現在8000筆集まっています。この2つの取り組みは、市民の福祉を守るうとの熱い心に支えられて進んできました。市民は運動の意義がわかれば動く。連帯できる「これは私の最大の教訓です。」

今、あやめ池地域ではあやめ池駅にエシペーターをつけてほしいとの署名に取り組み、現在8000筆集まっています。この2つの取り組みは、市民の福祉を守るうとの熱い心に支えられて進んできました。市民は運動の意義がわかれば動く。連帯できる「これは私の最大の教訓です。」

「ここがのつなったら困るから、署名してや」と、老春の家の玄関に立つて訴えられます。また5枚、10枚と署名用紙を持ち帰って近所の人に訴えた人もおられます。平和会健康友の会も1000筆近く集め、大きな力を発揮しました。

署名の6割は利用者が集めました。80歳台の人が「ここがのつなったら困るから、署名してや」と、老春の家の玄関に立つて訴えられます。また5枚、10枚と署名用紙を持ち帰って近所の人に訴えた人もおられます。平和会健康友の会も1000筆近く集め、大きな力を発揮しました。

今、あやめ池地域ではあやめ池駅にエシペーターをつけてほしいとの署名に取り組み、現在8000筆集まっています。この2つの取り組みは、市民の福祉を守るうとの熱い心に支えられて進んできました。市民は運動の意義がわかれば動く。連帯できる「これは私の最大の教訓です。」

今、あやめ池地域ではあやめ池駅にエシペーターをつけてほしいとの署名に取り組み、現在8000筆集まっています。この2つの取り組みは、市民の福祉を守るうとの熱い心に支えられて進んできました。市民は運動の意義がわかれば動く。連帯できる「これは私の最大の教訓です。」



▲署名を集める人たち

▲平和会が2月11日に開催した医療活動集談会で、署名の取り組みを話す津幡さん

まちがいさがし

10名の方に

正解者の中から図書カード(500円)を進呈



まちがいは7つ



なことだと感じました。また、読みたいたので願います。
西大寺宝ヶ丘 寺岡 知子

神功 真鍋 利徳

ウキウキかんたんクッキング、フライドポテトは油で揚げなくてはと、面倒なのと、カロリーが気になり遠ざかっていました。去年は思い切って胃力メラ検査を受けてみました。とても心配でしたが、受けて良かったと思います。
西大寺赤田町 山崎 博久

池田 久子

先日吉田病院待合室においてある柴田トヨさんの『くじけないで』を読みました。九十歳から書き始められ、若い頃からのことを思い出され書かれた詩です。子どもが生まれることの喜びを書かれた詩がとてもよかったです。
生駒市 米田 操

森田 文字

「生きる力と向きあつて」、これからの人生や年をとること、家族や仲間のことについて考えたりしました。みんなの力が必要で、支えられている。自分は一人居ないなど、色々です。とても大切にしたいです。
敷島町 川村 隆子

斑鳩町 遠藤 真琴

「生きる力と向きあつて」終末期、住

せ下さい(解答はイラストを切り取って、ハガキに貼ってお送り下さい)。
*なおハガキの余白に解答と合わせて今号の感想やご意見、近況などをお書き添え下さい。ご返信はご期待できません。

「印刷のよごれやかすれ、スクリーントーンの濃淡はまちがいにはいりません」

《前回の当選者》

- 中西 英子(西大寺北町)
- 久間 弘子(学園大和町)
- 兼松 好子(上牧町)
- 船寄 朝子(敷島町)
- 片岡 大五郎(山陵町)
- 真鍋 弥生(神功)
- 米田 操(生駒市)
- 赤井 博人(敷島町)
- 高橋 嘉子(法蓮町)
- 福田 裕美(精華町)

読者の声



《前回の解答図》

市川理事長の「安心の医療と介護を実現する年」大変心強く感じ入りました。(特に、がん治療の連携パスの開始)

敷島町 土田 泰造

大和郡山市 山本 純子

三郷町 森田 文字

「花粉症の治療とセルフケア」を読み、初期の治療が大切と思いました。花が咲き、いい季節にうつつしい思いをしなくてはならないので、早めに病院へと考えました。

「生きる力と向きあつて」には、悲しんだり、笑んだり、考えたり、いつも読ませていただいております。現場の皆様、お身体大切にされて頑張ってください。

斑鳩町 遠藤 真琴

「生きる力と向きあつて」終末期、住